
令和5年度
みえの防災活動事例集

三重県防災対策部
地域防災推進課

はじめに

令和6年1月1日、令和6年能登半島地震が発生。揺れにより多くの家屋が倒壊し、各地で火災が発生しました。また、土砂災害により多くの道路が寸断され、津波も発生しました。

三重県では近い将来、最大震度7の南海トラフ地震の発生が危惧されており、地域によっては10mを超える大津波が到達する恐れがあります。また、令和元年台風第19号や令和2年7月豪雨では、各地に甚大な被害が発生するなど、風水害も頻発しています。このような状況の中で、私たちは、「いつか来る」災害である地震・津波や「いつも来る」災害である風水害など、あらゆる災害への「備え」を着実に進める必要があります。

そのためには、自らの安全は自ら守る「自助」、自らの地域は住民の皆さんで守る「共助」、行政及び防災関係機関が担う「公助」の理念に基づいて、県民の皆さん、自主防災組織、事業者、市町、県、防災関係機関等がそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。

この事例集では、「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において表彰された、令和5年度「みえの防災大賞」受賞団体の特色ある自主的な防災活動を紹介しています。これらの活動を参考に、それぞれの地域に合った防災活動に取り組み、皆で「災害に強い三重づくり」を進めましょう。

令和6年1月 三重県防災対策部

「みえの防災大賞」とは

「みえの防災大賞」は、県内各地で自主的な防災活動に取り組んでいる団体を表彰し、これらの活動を県民の皆さんに広く知っていただくことにより、災害に強い三重づくりを進めることを目的として、平成18年度から実施しているものです。

令和5年度は、9団体から応募があり、選考の結果、「みえの防災大賞」1団体、「みえの防災特別賞」1団体、「みえの防災奨励賞」4団体を決定し、表彰しました。



目 次

みえの防災大賞

- ・ たまきちようぼうさい 玉城町防災ボランティア（玉城町）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

みえの防災特別賞

- ・ みえけんりつほくせいこうとうがっこう とみだちくれんごうじしゅぼうさいたい 三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊（四日市市）・・・・・・ 2

みえの防災奨励賞（50音順）

- ・ かもしょうちゅうがっこうがっこうんえいきょうぎかい 加茂小中学校学校運営協議会（鳥羽市）・・・・・・・・・・・・ 3
- ・ たきちようぼうさい 多気町防災ネットワークグループ（多気町）・・・・・・・・・・・・ 4
- ・ とよにし かい 豊西まちづくりの会（伊勢市）・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・ みえけんりつきなんこうとうがっこう 三重県立紀南高等学校（御浜町）・・・・・・・・・・・・ 6

令和5年12月17日（日）に南伊勢町のふれあいセンターなんとうで開催された「みえ地震・津波対策の日シンポジウム」において、令和5年度「みえの防災大賞」表彰式が行われました。





令和5年度みえの防災大賞

たまきちょうぼうさい

玉城町防災ボランティア

玉城町

玉城町防災ボランティアは、東日本大震災や紀伊半島大水害への被災地支援をきっかけに玉城町でも災害ボランティアが必要との声があがり、平成23年に組織を結成しました。結成後、行政と連携した防災訓練や地元小学校での防災体験教室、住民を対象とした防災キャンプ、自主防災組織とともに行うタウンウォッチングなど、自発的に防災・減災に関わる活動の実施を続けています。また、平成29年10月に発生した台風21号による災害では、災害ボランティアセンターを支援し、ボランティア活動を行いました。

令和元年度には他の地域の活動も参考にすることで、令和2年度に玉城町版HUG（避難所運営ゲーム）を製作し、普及を進めています。また、子どもから高齢者まで理解できる避難所行動マニュアルや玉城町在住の外国人に避難所について理解してもらうためのマニュアルといった、災害時に活用できる7つのマニュアルを作成しました。

結成後、長きにわたり防災ボランティア活動のみならず、子どもを含め地域住民の防災意識向上に大きく貢献しており、玉城町版HUGや災害時のマニュアル作成など独自の取組を行っている点、地元小中学校での防災体験教室などの取組を継続して実施している点、町と連携し各小学校区別の避難所運営マニュアルを作成している点は、他地域でも参考となるものです。

また、令和3年度に「みえの防災奨励賞」、令和4年度に「みえの防災特別賞」を受賞し、受賞後も持続性のある防災活動を展開し、常に高い防災意識を持ち合わせ、今後も地域において、町の防災リーダー的存在として防災活動に取り組みれることが大いに期待されます。



技術系ボランティア養成講座



消防団とのHUG



避難所運営ワークショップ



防災体験(簡易トイレ設置体験)



防災体験(防災倉庫見学)



玉城町版HUG



令和5年度みえの防災特別賞

みえけんりつほくせいこうとうがっこう 三重県立北星高等学校と

とみだちくれんごうじしゅぼうさいたい 富田地区連合自主防災隊

四日市市

三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊は、約10年間、毎年9月頃に合同で防災学習を実施してきました。

コロナ禍の令和3年度には、地震防災の有識者からのヒアリング等を行い、校外の高台である北勢バイパス近くの公園を二次避難先として設定し、避難目標まで誘導するイメージ動画の作成を行いました。

令和4年度には、北星高等学校と富田地区連合自主防災隊で合同二次避難訓練を行いました。当日は雷注意報が発表されていたため、地域住民のみの避難となりましたが、生徒と残った地元防災隊員の皆さんが二次避難コースの動画を一緒に視聴するとともに地元四日市大学の鬼頭副学長の防災講話も実施しました。

今年の5月には、北星高等学校と富田地区連合自主防災隊が合同で避難訓練を実施し、高校生が要支援者や高齢者役をリアカーで運搬するなど、避難経路沿いの高齢者や要介護者の避難を支援しました。その後、津波災害時に逃げるべき方向を意識する「命の矢印」シールを学校周辺の住宅へ配布する取組を同校ボランティア同好会が実施しました。

高校生が「率先避難者」として、避難経路沿いにいる高齢者や介護を必要とする住民に対して声掛けをして避難誘導ができる姿をめざして今後の活動も計画しており、こうした取組は東日本大震災で中学生が避難を呼びかけながら高台に逃げたことで多くの命が助かった「釜石の奇跡」に続く取組であり、これからの活動の発展に期待できるものです。



「10年以上にわたる学校と連合自主防災隊の合同訓練」の継続



いざというときの「地元の若い力への期待感」



2023年、「高齢者等要支援者を意識した合同避難訓練」の実現



リアカーを押す女子生徒「ありがとうございますってくださり、この人の命を本当に守りたい」と語った。



二次避難先の高台「くるべ遺跡公園」に生徒・地域住民が結集



高台避難を呼びかける「命の矢印」で防災の日常化の意識啓発



令和5年度みえの防災奨励賞

か も しょうちゅうがっこうがっこうんえいきょうぎ かい
加茂小中学校学校運営協議会

鳥羽市

加茂小中学校学校運営協議会は「子どもも大人も未来を担う地域の一員である」というメッセージを掲げ、コミュニティースクールディレクターが各団体の調整役となり、避難所運営訓練を実施しています。

令和4年10月に第1回目、令和5年10月に第2回目となる「加茂地区避難所運営訓練」を実施し、小中学生が班員として参加しました。訓練では子どもたちが大人と一緒に誘導、受付、健康管理、非常食の配布など各班の運営に携わりました。訓練中は子どもたちがお年寄りにいたわりの心をもって声をかける、お年寄りが子どもたちの活躍をほめる、心配りや思いやりで満たされた空間にすることで居心地の良い避難所づくりをめざしてきました。

同協議会では「がんばればできる」と自分のことを肯定的に認めることができれば、子どもたちは新たな挑戦に向かって主体的に行動することができ、地域社会の担い手となる次世代の育成につながっていくものと考え地域が一体となった取組を進めている点は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。



班長（町内会役員）と班員（児童生徒）による班別ミーティング



パーティションの設置など、避難所開設に向けた準備



避難者の皆さんと健康状態を確認する受付前案内班



受付班は避難者の受付を行い、避難者名簿を作成



避難者を避難スペースへ案内する誘導班



健康状態や要望等を聴き取る健康衛生班



避難された加茂地区の皆さん（老人クラブ、PTA等）



避難者の皆さんに非常食を配布



鳥羽市総務課防災危機管理室による講評と講話を聴く参加者



令和5年度みえの防災奨励賞

たきちょうぼうさい

多気町防災ネットワークグループ

多気町

多気町防災ネットワークグループは地域の「防災意識の低さ」を課題に住民主導の防災意識向上に取り組むことを目的に結成されました。地域住民の視点から、誰もが緊急時にスムーズに避難所を開設できることをコンセプトに、社会福祉協議会と協働で「避難所開設マニュアル」を作成しました。

また、多様な主体が地域防災に関わっていく体制を整えることをめざして、住民向けワークショップ「たき防災体験」を開催し、令和5年3月には避難所開設マニュアルをもとに住民参加型でワークショップを実施し、参加者が難しかった点などの感想を話し合いました。令和5年8月には避難経路のシュミレーションや、避難所・仮設住宅での困りごとの解決方法を考えました。

今後も、「たき防災体験」を継続的に進めていくとともに、町内の中学校でも実施できるよう、関係者と調整を進めているところであり、これからの活動の発展に期待できるものです。



たき防災体験の一コマ：避難ルートを考えるワークショップ

- 中高生、現役世代から80代まで、多様な世代が同じ目線で議論できるワークショップ。
- 実際の災害で起こる困りごとを議論し、解決方法を考えるワークショップ。
- 民生委員、ボランティア等多様な人たちの参加。



たき防災体験の一コマ：避難所開設訓練



多気町防災ネットワークグループの
ゆかいな仲間たち



避難所開設の際に必要な
キットの整備



令和5年度みえの防災奨励賞

とよにし かい
豊西まちづくりの会

伊勢市

豊西まちづくりの会（8自治会）は地域全体の防災活動を発展させるため、活動を開始しました。令和元年には各自治会が避難場所で連携がとれるよう、誰が見てもすぐ理解でき、使えることをコンセプトに「豊西小学校避難所運営マニュアル」の作成を開始しました。また、豊西地域特有の HUG（避難所運営ゲーム）カードを 252 枚作成し、併せて講習会を実施しました。

令和5年度は、豊西 HUG 講習会や夜間避難所開設訓練、延焼防止訓練など継続的に幅広い活動を行っています。また、備蓄食料を購入する財源がない自治会の災害時の食料とするため、休耕農地において、さつま芋の栽培を行い、収穫したさつま芋は廃校舎で保存しています。もみ殻を使用して保存するなどの工夫を行い、テスト的に約半年間保存した結果、腐敗した芋は4個のみであったことから、今後も継続してさつま芋の栽培を行っていく予定です。これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。



延焼防止訓練

元バルブ開放訓練



ホース繋ぎて訓練



放水訓練



夜間避難所開設訓練

訓練内容の説明



本部役員の招集呼びかけ



避難者カードによる避難者家族受付



防災備蓄農園

休耕の畑でサツマイモ作り



廃校となった中学校校舎で保存



約半年間で腐ったのはわずか4個



令和5年度みえの防災奨励賞

み え けんりつきなんこうとうがっこう
三重県立紀南高等学校

御浜町

三重県立紀南高等学校は令和3年に東日本大震災の被災地で学ぶ「三重県学校防災ボランティア事業」に同校生徒7名が参加し、3泊4日で宮城県を訪れ、津波被災施設の視察や語り部による講話を聞きました。参加した生徒は、児童や先生が震災直後すぐに裏山に避難し、全員が無事だった石巻市立門脇小学校が、震災後どこからでも見やすい大きな津波避難所への案内板を設置したことに着目し、自校の周りには小さな案内板しか設置されていないことから、避難所を示す案内板、ピクトグラム設置をめざすことを目的に活動を開始しました。

地元企業や個人から提供いただいた協賛品で非常持出袋「防災避にゃんセット」を開発・販売し、その収益を御浜町に寄付して案内板の設置費用に充てることで、今年度中にピクトグラムの完成をめざしています。

また、地元の製菓会社と防災食の共同開発に取り組み、ネーミングやパッケージデザインを同校生徒が行う予定をしています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。



「防災きにゃんプロジェクト」のきっかけは、令和3年に開催された御浜町との合同防災訓練に講師に来ていただいた齋藤幸男先生（東日本大震災当時、石巻西高校の教頭先生）でした。



ピクトグラム設置の資金を集めるために、「非常持出袋」を開発することになり、リュックの中身を協賛してくれる方を紀南高校のホームページや地元の新聞で呼びかけると、地元企業4社と2団体、個人2名から、たくさんの協賛品をいただきました。



17種類の防災・減災グッズを詰め込んで、「非常持出袋」が完成しました。私たちの一番のこだわりは、家の玄関などにかけ、お互いに「無事である」、「避難が完了している」ことを知らせ合う安否確認カードです。



「非常持出袋」の名前を、「きにゃん」と「避難」をかけて『防災避にゃんセット 一緒にひにゃんしよう!』と名付けました。



「防災避にゃんセット」を地元道の駅3か所で、100セット販売しました。その後の販売も合わせて、現在90個売り上げました。



「防災避にゃんセット」